

ブルガリアのバラと野草

東京薬科大学名誉教授
指田 豊

【講師略歴】

指田 豊 (さしだ ゆたか)

東京薬科大学名誉教授 (薬学博士)

昭和 38 年 東京薬科大学卒

昭和 60 年 カナダの University of British Columbia に留学

平成 元年 東京薬科大学教授 薬用植物園園長を併任

平成 16 年 定年退職

定年後は薬用植物を中心に身近な植物の活用に関して、講演、執筆、野外観察指導などを行っている。

現在の役職

東京薬科大学監事

日本植物園協会名誉会員

和漢医薬学会評議員

日本機能性食品医用学会評議員

Nard アロマセラピー協会会長

(株)ファーマシー顧問

主な著書

身近な薬用植物 平凡社

薬用植物学(共著) 広川書店

パートナー生薬学(編著) 南江堂

カラーグラフィック薬用植物(編著) 広川書店

皮膚炎をおこす植物の図鑑 共和企画通信

薬草の散歩道 -薬になる野の花・庭の花 100 種- NHK 出版

植物による食中毒と皮膚のかぶれ(共著) 少年写真新聞社

ブルガリアのバラと人里植物

東京薬科大学名誉教授

指田 豊

2015/11/26

東京都薬用植物園

ブルガリア

東南ヨーロッパにあり、日本から 9000 km 離れている。北はドナウ川、東は黒海、南はトルコとギリシャ、西はセルビアとマケドニアに接している。面積は 111km² で北海道より少し広い。大陸気候で冬は寒く、夏は暑い。人口は 760 万人。首都はソフィアで人口は 150 万人。

歴史は古く、紀元前 5 世紀のギリシャの記録にここに住んでいた民族、トラキア人のことが書かれており、紀元前 3000 年頃のトラキア人の墓が見つかっている。その後、ギリシャ、ローマ帝国、東ローマ帝国、モンゴル、オスマン帝国などの侵略や支配下に置かれてきたが、1908 年に独立。その後、第 1 次、第 2 次バルカン戦争を経て国土が縮小した。1946 年、王政が廃止され、一党独裁の社会主義国になった。1990 年に民主化され、2007 年には EU に加盟した。



バラの谷

ブルガリアはトルコとともに、香料用のローズオイルの世界最大規模の生産地である。バラの谷はブルガリア中部を東西に走るバルカン山脈の南側にあり、気候温暖でバラの栽培に適し、数世紀にわたり栽培が続けられてきた。バラの谷の東よりに位置するカザンラク(人口 8 万人) がその最大の拠点になっている。

バラの精油(ローズオイル)

通常は新鮮なバラの花弁を水蒸気蒸留して得る。1g の精油を得るのに 4-7kg の花弁が必要。何千もあるバラの品種のうち、精油の原料になるのは数品種しかない。その中でも重要なのはダマスクローズ *Rosa damascena* である。3 種のバラの雑種でトルコのダマスカスで栽培されていたことからこの名がある。

バラ祭り

カザンラクで 1903 年から毎年 6 月の第 1 週の土・日に開かれ、国際的なイベントになっている。郊外でのバラ摘みと民族舞踊、街中の舞台での催しとパレードがあり、バラの女王も選ばれる。

ブルガリアの人里植物

ウスベニアオイ	アオイ科	コエンドロ	セリ科
キショウブ	アヤメ科	スイバ	タデ科
ドイツアヤメ	アヤメ科	イチョウシダ	チャセンシダ科
セイヨウイラクサ	イラクサ科	マロニエ	トチノキ科
ハグマノキ	ウルシ科	シラタマソウ	ナデシコ科
セイヨウオオバコ	オオバコ科	カニナバラ	バラ科
シダレシラカバ	カバノキ科	マルメロ	バラ科
セイヨウノコギリソウ	キク科	オランダワレモコウ	バラ科
カミツレ	キク科	セイヨウミザクラ	バラ科
トゲジシャ	キク科	セイヨウヤブイチゴ	バラ科
ヤグルマギク	キク科	ヨーロッパクサイチゴ	バラ科
ペルシャグルミ	クルミ科	セイヨウバクチノキ	バラ科
ヒナゲシ	ケシ科	チゴフウロ	フウロソウ科
セイヨウクサノオウ	ケシ科	オランダフウロ	フウロソウ科
カラフトヒヨクソウ	ゴマノハグサ科	ウスユキマンネングサ	ベンケイソウ科
ツタバウンラン	ゴマノハグサ科	オウシュウアカマツ	マツ科
オオイヌノフグリ	ゴマノハグサ科	ドイツトウヒ	マツ科
ヤクヨウサルビア	シソ科	ニセアカシア	マメ科
ボダイジュ類	シナノキ科	シナガワハギ	マメ科
セイヨウニワトコ	スイカズラ科	キバナカラスノエンドウ	マメ科
スイカズラ	スイカズラ科	シロツメクサ	マメ科
ニオイニンドウ	スイカズラ科	ナヨクサフジ	マメ科
セコイヤメスギ	スギ科	キングサリ	マメ科
スズカケノキ	スズカケノキ科	シベナガムラサキ	ムラサキ科
マキバスマイレ	スマイレ科		